

特開平4-257178

(43) 公開日 平成4年(1992)9月11日

(51) Int.Cl.³

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

H 0 4 N 5/782

A 7916-5C

G 1 1 B 5/027

Q 7736-5D

H 0 4 N 5/91

N 8324-5C

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平3-18609

(22) 出願日 平成3年(1991)2月12日

(71) 出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72) 発明者 森本 健

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 小倉 一郎

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

(72) 発明者 関本 邦夫

大阪府門真市大字門真1006番地 松下電器
産業株式会社内

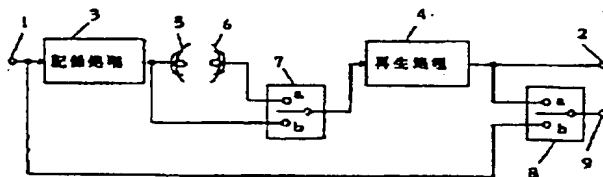
(74) 代理人 弁理士 小鍛冶 明 (外2名)

(54) 【発明の名称】 記録再生装置

(57) 【要約】

【目的】 VTRの同時録再機能を用いて1台のVTRで記録媒体上の収録素材の再生を行いつつ、素材の加工を行って得た加工素材を同一記録媒体上に記録するプリリード編集時にも、編集画像の確認ができる装置を提供することを目的とする。

【構成】 第2のスイッチ8と第2の映像出力端子9を新たな構成として設け、プリリード編集時に、入力端子1からの映像信号(再生映像信号)を第2のスイッチ8で選択し、第2の映像出力端子9から出力する構成とすることにより、記録媒体上にできる素材の確認を可能にする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】映像信号を入力する入力端子と、前記入力端子からの映像信号を記録処理する記録処理手段と、前記記録処理手段の出力を記録媒体に記録する記録ヘッドと、前記記録媒体から再生出力を得る再生ヘッドと、前記再生ヘッドの出力または前記記録再生手段の出力を選択的に出力する第1のスイッチ手段と、前記スイッチ手段の出力を再生処理して再生映像信号を得る再生処理手段と、前記再生処理手段の出力を取り出す第1の映像出力端子と、前記入力端子からの映像信号または前記再生処理手段の出力を選択的に出力する第2のスイッチ手段と、前記第2のスイッチ手段の出力を取り出す第2の映像出力端子とを備え、前記第1の映像出力端子からの再生映像信号に必要な加工を施した後、前記入力端子の入力として記録するプリリード編集時に、前記第2のスイッチ手段は前記入力端子からの映像信号を選択する構成とした記録再生装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明はVTRなどの映像信号の記録再生装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】図2に従来例を示して従来のVTR装置について説明する。

【0003】1は映像信号の入力端子、2は第1の映像出力端子、3は記録処理回路、4は再生処理回路、5は記録ヘッド、6は再生ヘッド、7はスイッチ回路である。

【0004】入力端子1に入力された映像信号は記録処理回路3と記録ヘッド5を介し記録媒体（図示せず）に記録される。記録時には、スイッチ7はb側にあり、記録信号が再生処理回路4を通り、第1の映像出力端子2より入力映像信号が出力される。

【0005】ところで再生時には、スイッチ7はa側にあり、記録媒体から再生信号が再生ヘッド6と再生処理回路4を介し、出力端子2より再生信号が出力される。

【0006】このような構成のVTRを用いて、ある記録媒体に記録されている収録素材にタイトルのインサートやモザイクなどの特殊効果などの加工を施して、加工して得られた結果を保存する場合、図3(a)のように2台のVTRを用いることがよく行われる。すなわち、VTR1よりオリジナルの収録素材を再生して加工を施し、VTR2に記録する。

【0007】以上の収録素材の編集は放送局ではよく行われており、高価なVTRを2台必要とするため、最近、開発されたコンポジットデジタルVTR(D2VTR)では、このような収録素材の加工を図3(b)に示すように1台のVTRで可能にする機能（プリリード編集と呼んでいる。）が追加された。

【0008】プリリード編集時には、VTR装置は記録

媒体からの収録素材の再生と同時に同一の記録媒体への記録が行われている。図2を用いて説明すれば、スイッチ7はこのとき、a側にあり、再生ヘッド6からの再生信号が出力端子2より出力されると同時に、入力端子1に入る映像信号が記録ヘッド5で記録される。

【0009】

【発明が解決しようとする課題】この装置の問題は、プリリード編集時に、第1の映像出力端子2には再生信号しか出力されておらず、記録される映像信号を確認することができない。このため記録媒体上の収録素材がどのように編集されたかがプリリード編集に確認できないので、非常に使い勝手の悪いものであった。

【0010】本発明は、プリリード編集時にも編集画像の確認ができる記録再生装置を提供することを目的とする。

【0011】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するため本発明は、映像信号を入力する入力端子と、前記入力端子からの映像信号を記録処理する記録処理手段と、前記記録処理手段の出力を記録媒体に記録する記録ヘッドと、前記記録媒体から再生出力を得る再生ヘッドと、前記再生ヘッドの出力または前記記録再生手段の出力を選択的に出力する第1のスイッチ手段と、前記スイッチ手段の出力を再生処理して再生映像信号を得る再生処理手段と、前記再生処理手段の出力を取り出す第1の映像出力端子と、前記入力端子からの映像信号または前記再生処理手段の出力を選択的に出力する第2のスイッチ手段と、前記第2のスイッチ手段の出力を取り出す第2の映像出力端子とを備え、前記第1の映像出力端子からの再生映像信号に必要な加工を施した後、前記入力端子の入力として記録するプリリード編集時に、前記第2のスイッチ手段は前記入力端子からの映像信号を選択する構成としている。

【0012】

【作用】本発明は上記の構成により、第2の映像出力端子に、通常は第1の映像出力端子と同一の映像を出力するが、プリリード編集時に記録が実行されているときに入力映像信号を出力するので、第2の映像出力端子を用いて、プリリード編集操作で記録媒体上にできる収録素材の確認ができるようになる。

【0013】

【実施例】図1を用いて本発明の実施例を説明する。なお、従来例（図2）と同一機能の部分は同一符号をつけた。

【0014】本発明ではスイッチ8と第2の映像出力端子9が新たに追加されている。プリリード編集中は、スイッチ7はa側にあり、再生ヘッド6を介して記録媒体より映像信号が再生され、再生処理回路4を通り第1の映像出力端子2より再生映像信号が出力される。再生映像信号は、本機外部に設けられた特殊効果装置など（図

3中の加工装置)で加工された後、再度、入力端子1に入る。入力映像信号は記録処理回路3と記録ヘッド5を介し、同一記録媒体上に記録される。ここで、第1の映像出力端子2の映像信号と入力端子1の映像信号が異なるので、第1の映像出力端子2の映像をTVモニターで監視していてもどのような映像が記録媒体上に記録されたかまったく判らない。

【0015】そこで、プリリード編集中の記録画像の確認を第2の映像出力端子9からの映像信号をTVモニターで確認する。スイッチ8は通常、a側にあり、再生処理回路4の出力を出力するが、プリリード編集中の記録時にはスイッチがb側となり、入力映像が出力され、TVモニターで記録媒体上の画像を確認できる。

【0016】編集を行うときは、実際のプリリード編集に先立って試験的に模擬的なプリリード編集(プレビューと呼んでいる。)が行われる。プレビュー時は、媒体への記録は行わず、これ以外のVTRの動作は実際のプリリード編集とまったく同じである。放送局では、最終的に記録媒体にできる素材の確認を、特に、プレビュー機能で十分に行う。このようなことから、記録の実行は行われていないが、プレビュー時にも実際のプリリードと同じタイミングでスイッチ8がb側に切り替わり、記録映像を確認できる。

【0017】

【発明の効果】本発明は第2の映像出力端子に、通常は第1の映像出力端子と同一の映像を出力するが、プリリード編集時に記録が実行されているときに入力映像信号を出力するので、第2の映像出力端子の画像をTVモニターで監視することにより、プリリード編集操作で記録媒体上にできる収録素材の確認ができるようになった。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例に於ける記録再生装置のブロック図

【図2】従来例に於ける記録再生装置のブロック図

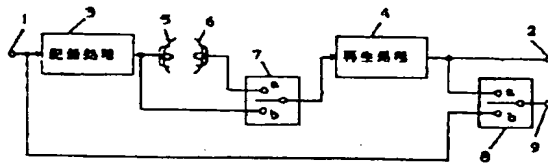
【図3】(a)一般的な収録素材編集システム図

(b)プリリード編集を用いた収録素材編集システム図

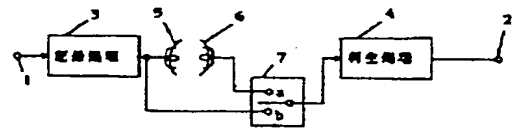
【符号の説明】

- 1 入力端子
- 2 第1の映像出力端子
- 9 第2の映像出力端子
- 3 記録処理回路
- 4 再生処理回路
- 5 記録ヘッド
- 6 再生ヘッド
- 7, 8 スイッチ

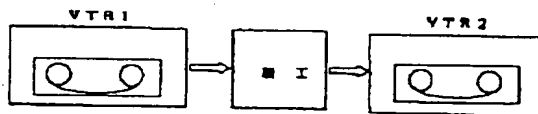
【図1】



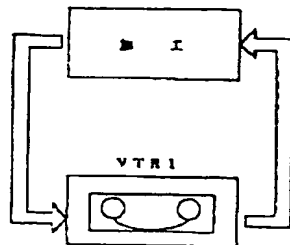
【図2】



【図3】



(a)



(b)